

共通駐車サービス券の取り組みと本券を使用した利用者の回遊性調査

(財) 駐車場整備推進機構 (JPO) 正会員 ○ 岸村 和守
八王子商工会議所 北島 剛
(財) 駐車場整備推進機構 (JPO) 正会員 小田桐 直幸
(財) 駐車場整備推進機構 (JPO) 高木 誠一

1. はじめに

近年，地方都市および大都市近郊では急速な車社会の進展により，都市機能の郊外移転および郊外大型商業施設が発展し，中心市街地の空洞化・衰退化が大きな問題となっている．さらに，平成 18 年 6 月の道路交通法の改正に伴う路上違法駐車取締りの強化による渋滞緩和の効果の反面，物流会社への負担の増大および買い物客が自家用車で中心市街地への乗り入れを敬遠する傾向にある．これにより商店の売上げが減少し，中心市街地衰退に拍車をかけることが懸念される．

中心市街地活性化の一方策として、駐車券読取り規格をメーカーを問わず共通化（「共通規格」と略す）することと同時に、その規格に対応した共通駐車サービス券（「共通券」と略す）を導入した取り組み事例、および共通券を利用した買い物客の回遊性調査結果について報告する。

```
graph LR; A[参加商店] -- ② --> B[商店連合会]; B -.-> A; B -- ① --> C[商工会議所]; C -.-> B;
```

2. 共通駐車サービス券システムの概要

共通券システムとは、「商業施設にて買物金額に応じた駐車料金割引サービス券（磁気券）を受け取り、商店専用駐車場だけでなく街中の提携駐車場全てに割引の適用が受けられるシステム」のことである。共通券の運用フローの一例を図-1 に示す。

、商工会議所が運営団体となり、商店連合会を通して参加商店にサービス券を販売する。

参加商店は利用客の買い物金額に応じて共通券を配布する。利用客は駐車場にて駐車料金のサービス割引を受ける。参加駐車場では精算機のカードリーダーを JPA（（社）全日本駐車協会）規格に統一し、利用客が駐車場選択の幅を広げることにより利便性向上につなげる。

参加駐車場は回収した共通券を商工会議所に持ち込み換金する。

3. 八王子市における共通駐車サービス券の取組み

八王子市の人口は約 54 万人で、新宿から西へ約 40km の大都市郊外に位置する。既存の駐車場案内システムの対応が追いつかず、駐車場利用に偏りが生じ、週末にはうろつき交通や入庫待ち車両による道路交通混雑が発生していた。このため、駐車場案内システムの高度化と同時に、当初加盟店 65 店舗（現在 71 店舗）、参加駐車場 15 か所（現在 18 か所）にて、平成 18 年 4 月より共通券システムが本格運用されている。広報用チラシを

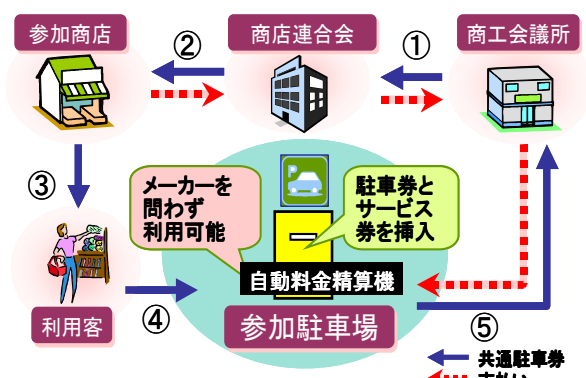


図-1 共通駐車サービス券の運用フロー



図-2 共通駐車サービス券広報用チラシ

キーワード：共通駐車サービス券，中心市街地活性化，回遊性

連絡先：〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4(砂防会館別館)企画調整部 TEL03-5276-5775, FAX03-5276-5780

図-2 に示す．また，共通券取扱枚数の推移を図-3 に示す．毎月の取扱枚数は 5,000 枚程度で推移している．

4．回遊性調査方法

上記で述べた共通券を用い，加盟店舗および参加駐車場に協力を呼び掛け，共通券利用者の回遊距離の分析およびデータ蓄積を目的に調査を実施した．調査概要を以下に示す．

(1) 調査期間：7 日間（平成 18 年 10 月 10 日～10 月 16 日）

(2) 配布協力加盟店：6 店舗（金融機関：2 店，美容院：2 店，男性衣料：1 店，楽器店：1 店）

(3) 回収駐車場：4 駐車場

(4) 調査方法：配布加盟店にて店舗名と日付を記入してもらい，回収駐車場にて回収日，店舗ごとに共通券を仕分け．

(5) 分析に利用した共通券：配布日と同一日に回収された 496 枚．

5．回遊性調査結果

共通券を利用者から回収した駐車場を中心にすえた際の，本券を配布した加盟店までの直線距離を図-4 に示す．円弧の太さは人数に比例する．図-4 の結果を基に，利用者移動距離と共通券回収枚数との関係を図-5 に示す．これにより，回収枚数の最大は移動距離 20m の 204 枚（41%）であったが，移動距離 300m でも 114 枚（23%）の回収が確認された．最大移動距離としては 560m（2 枚，0.4%）および 530m（8 枚，1.6%）が確認された．この距離はあくまでも，地図上で駐車場と店舗とを直線で結んだものであり，実際にはこの間の複数店舗を目的に回遊したものと思われる．駐車券の共通化により，市街地内において直線距離にして 500m 程度の行動範囲が期待されることが確認された．

6．おわりに

八王子市における共通券加盟店は約 1,000 店舗のうちわずか 70 店舗程度と少なく，全体の 1 割にも満たない．別途実施されたアンケート結果では，利用意向者が約 6 割いるにもかかわらず，同時に未認知者が約 6 割を占めている．今後，効果的な広報活動を企画・実施し，利用者が利用店舗の選別を図り店舗へ共通券配布を要求することにより取扱枚数増加が期待できる．また，共通券利用による回遊性の高まりに伴う経済効果把握や，商店・駐車場事業者への意識調査を進める必要がある．さらに少子高齢化が進む日本で，高齢者の暮らしやすいコンパクトシティづくりを図るため，中心市街地に都市機能を集約するための一つの手段として，共通券に対する自治体取り組みの一層の広がりが望まれる．

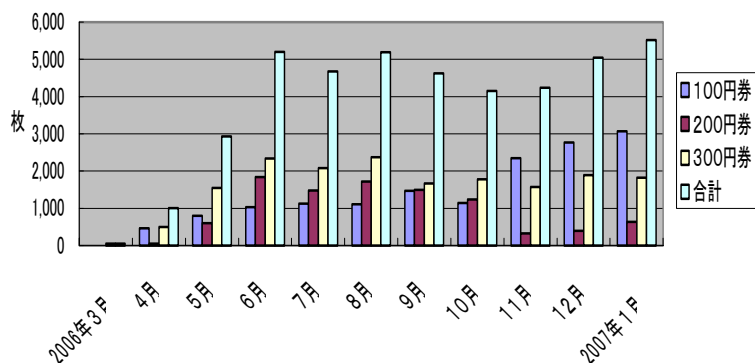


図-3 共通駐車サービス券取扱枚数の推移

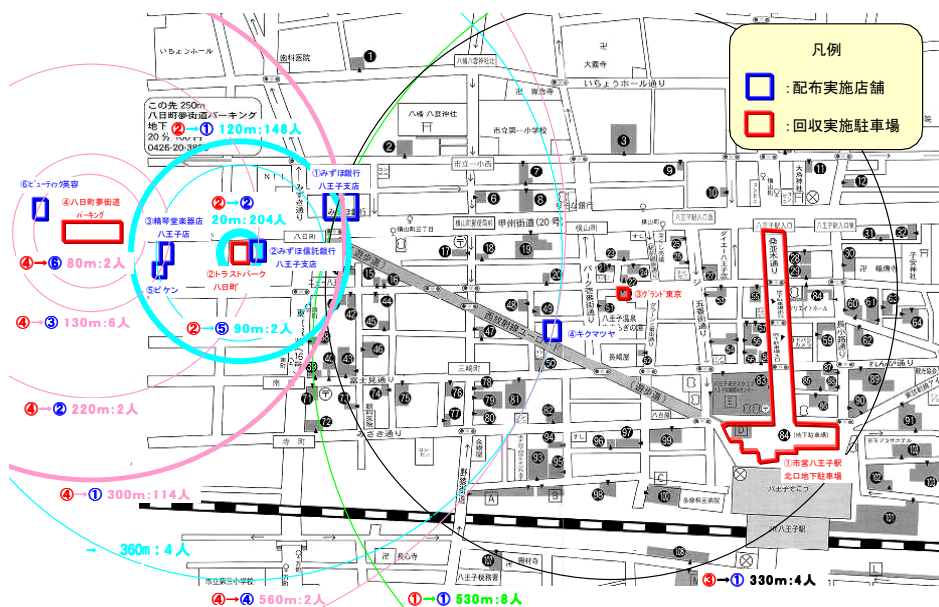


図-4 共通駐車サービス券利用者回遊範囲図

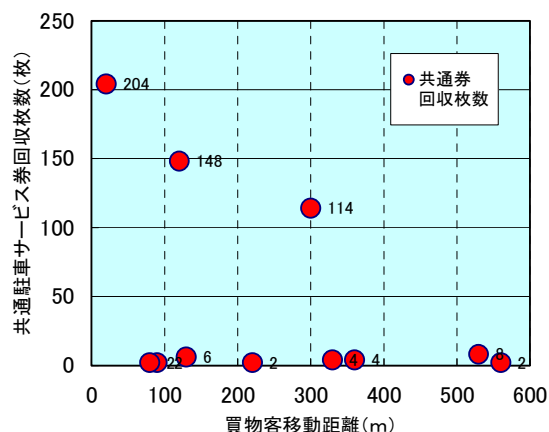


図-5 利用者移動距離と共通券回収枚数